**19 『奥の細道』**

今日はしらず・子しらず・犬もどり・返しなどいふ北国一のを越えてつかれれば、引きよせてねたるに、隔ててのに、若き女の声二人ばかりときこゆ。年老いたるをのこの声もりて物語するを①きけば、の国といふ所の遊女なりし。②参宮するとて、この関までをのこの送りて、あすはにかへす文したためて、(ア)はかなきなどしやるなりのよするに身をふらかし、まのこの世を(イ)あさましうりて、定めなき契り、日々いかに(ウ)つたなしと、物いふをきくきく寝入りて、あした旅立つに、我々にむかひて、「ⓐ知るぬ旅路のうさ、あまり(エ)なうかなしく侍れば、見えがくれにも御跡をしたひⓑ侍りん。の上の御情けにのめぐみをたれてせさせへ。」と涙を落とす。「のことには侍れども、我々は所々にてとどまる方おほし。ただ、③人の行くにまかせて行くべしのかならずⓒなしべし。」といひ捨ててでつつ、④哀れさしばらくやまざりけらし。

　に遊女もねたりと月

にかたれば⑤書きとどめ侍る。

語　注

親しらず・子しらず・犬もどり・駒返し＝いずれも市振の東方（現在の新潟県）にある難所。

白浪の～＝「白波の寄するに世をつくすの子なれば宿もさだめず」（新古今集）を踏まえる。

はふらかし＝放浪させる。

あまのこの世＝「こ」は「蜑（漁師）の子」と「の世」との掛詞。

業因＝現世で善悪の報いを受ける前世の所行。

衣の上の御情け＝ご出家のお情け。

大慈のめぐみ＝仏の広大な慈悲心。

神明の加護＝神のお守りの意。

曾良＝俳人。の弟子。

問1　二重傍線部ⓐ～ⓒの用言は基本形になっている。それぞれ適当な活用形に活用させ、また、この用言に接続している助動詞の文法上の意味を、それぞれ次から選べ。（3点×3）

ア　意志　　　イ　受身　　　ウ　打消　　エ　命令

オ　推量　　　カ　使役　　　キ　過去　　ク　詠嘆

　　用言 適当な活用形 助動詞の意味

ⓐ　知る　　　〔　　　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　〕

ⓑ　侍り　　　〔　　　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　〕

ⓒ　恙なし　　〔　　　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　〕

問2　波線部(ア)～(エ)の語の本文中での意味として、最も適当なものをそれぞれ次から選べ。 （4点×4）

(ア)　「はかなき」

　ア　頼りない　　　　イ　ちょっとした

　ウ　きちんとした　　エ　奥ゆかしい

　オ　はっきりしない

〔　　　〕

(イ)　「あさましう」

　ア　あきれるほど　　イ　しきりに　　ウ　誘って

　エ　あさはかに　　　オ　当然

〔　　　〕

(ウ)　「つたなし」

　ア　不遇である　　イ　趣がある　　ウ　さみしい

　エ　未熟である　　オ　うれしい

〔　　　〕

(エ)　「覚束なう」

　ア　とめどなく　　イ　珍しく　　ウ　心細く

　エ　きまりが悪く　　オ　わずらわしく

〔　　　〕

問3　傍線部①・②・⑤の動作主をそれぞれ次から選べ。 （2点×3）

ア　筆者（松尾芭蕉）　イ　をのこ　　ウ　曾良

エ　若き女たち　　　　オ　神明

①〔　　　〕　②〔　　　〕　⑤〔　　　〕

問4　傍線部③の解釈として最も適当なものを次から選べ。 （6点）

ア　我々のあとをついて行きなさい。

イ　あなた方についてきてくれる人を探して、行きなさい。

ウ　神の御意志に従って、行きなさい。

エ　道案内できる人に付き従って行きなさい。

オ　同じ方角へ行く人に従って行きなさい。

〔　　　〕

問5　芭蕉の詠んだ句から季語を二つ抜き出し、その季節を答えよ。（3点）

季語〔　　　　　　・　　　　　　〕　季節〔　　　　　　〕

問6　傍線部④のように芭蕉は遊女たちの境遇を哀れに感じているが、遊女たちは自らの境遇をどのように感じているか。それが書かれている部分を本文中から抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。 （10点）

〔　　　　　　〕～〔　　　　　　〕

練習問題〈呼応（陳述）の副詞〉

次の文から副詞を抜き出し、それに呼応する語をそれぞれ抜き出せ。

①　え問ひにだにも問はず。

副詞（　　　　　　）

呼応する語（　　　　　　）

②　をふたぎてつゆ見おこせず、

副詞（　　　　　　）

呼応する語（　　　　　　）

③　まだ見ぬ骨のさまなり。

副詞（　　　　　　）

呼応する語（　　　　　　）

④　ゆめゆめまろが聞こえたると、な口にも。

副詞（　　　　　　）

呼応する語（　　　　　　）

【解答】

問1　ⓐ知ら・ウ　ⓑ侍ら・ア　ⓒ恙なかる・オ

問2　(ア)イ　(イ)ア　(ウ)ア　(エ)ウ

問3　①ア　②エ　⑤ウ

問4　オ

問5　季語＝萩・月　季節＝秋

問6　白浪のよす～につたなし

【練習問題解答+口語訳】

①副詞＝え 呼応する語＝ず

　《問うことさえもできない。》

②副詞＝つゆ 呼応する語＝ず

　《袖で（顔を）覆って少しもこちらに目をむけず、》

③副詞＝まだ 呼応する語＝ぬ

　《まだ見たこともない骨の様子である。》

④副詞＝ゆめゆめ 呼応する語＝な

　《決して私が（あなたに）お知らせしたと言うな。》